

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

教員・院生間の学術交流の活性化と各領域の知の結集化

(狙い内容)

大学院指導教員と大学院生とが一丸となって高い学識を持った集団に育っていくために、教員・院生が一堂に会する研究発表会をスタートさせ軌道に乗せていくとともに、前期課程の授業においては各領域の知を結集して現代の学問的課題に応え得る「文学研究科特殊講義」の見直しと定着化を図る。

1. 6年後(2021年度)のめざす姿(目標)

教員と院生とによる合同研究発表会が年2回定期的実施され、あわせて「文学研究科特殊講義」が春・秋学期に1講ずつ開講されることによって、文学研究科の教員・院生間での学術的交流が促進され、各々の学知の広がりや研究意欲の高まりについての相互関心が一層増していく。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

現在文学研究科の教員と院生とが各自の研究成果を報告・共有し合える場として人文学会の発行する「人文論究」があるが、両者の間の学問上での交流・情報交換をより一層活発にするために専攻、領域の垣根を越えた研究発表会を定期的に行っていくことは効果的であると思われる。一方、多様で異なった研究領域が相互に浸透と影響を及ぼし合う現代の学問的動向に対応させるべく2008年度に開設した「文学研究科特殊講義」がまだ定着化には至っていない。研究発表会を先行してスタートさせて研究科の教員と院生が取り組んでいる研究テーマの多様性への関心を惹起し、それと並行してカリキュラム的な整備を図りつつ、各領域の知を融合させた内容の授業を提供する体制を整える必要がある。

3. 達成度評価

評価指標	合同研究発表会の実現 「文学研究科特殊講義」の実質的運用	評価尺度	A:構築完了・運用 B:試行段階 C:検討・準備段階
-------------	---------------------------------	-------------	----------------------------------

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
課題の明確化	Dをめざす	Cをめざす	Cをめざす	Bをめざす	Bをめざす	Aをめざす